

1998－2000 年に診断された群馬県における 前立腺がん患者の 5 年相対生存率

猿木 信裕* 茂木 文孝 鈴木 和浩 小山 洋

1. はじめに

群馬県の地域がん登録は 1994 年に始まったが、2006 年の DCO は 39.4%であり、登録精度の向上が課題であった。2006 年 6 月、「がん対策基本法」の成立を受け、「がん診療連携拠点病院」が指定されることとなり、群馬県では 11 病院が拠点病院に指定された。拠点病院ではがん登録が義務づけられ、群馬県でも地域がん登録への届け出数が急増し、わずか 3 年で DCO は 20%台になり、信頼性のあるデータ解析が可能になってきた。特に 1998－2000 年における前立腺がんの追跡率は 100%、DCO は 9.4%であった。

2. 方法

群馬県地域がん登録のデータを用いて、1998－2000 年診断症例における前立腺がん (C61) の 5 年相対生存率を算定する。

3. 結果

群馬県における前立腺がんの 5 年相対生存率は、限局 100% (959 例)、領域 87.6% (126 例)、遠隔転移 54.1% (323 例)、病期不明 69 例、全体で 95.9% (1,477 例)であった。

4. 考察

日本の 11 の地域がん登録のデータから 1998－2000 年の前立腺がん粗罹患率は人口 10 万人当たり 28.8 と報告されている。群馬県における前立腺がん (C61) の 5 年相対生存率は、これまで報告されていた日本の 6 地域がん登録の生存率 (1997－1999 年) 75.5% と比べて高く、US SEER Program (1996－2003 年) で報告された生存率 98.1%とほぼ同じである。群馬県における 75 歳未満年齢調整死亡率は 2007 年以降全国平均を下回るようになっており、前立腺がんの粗罹患率は他地域より高く、今回の結果が PSA 検診による効果といえるかどうかさらに検討する必要がある。

*群馬県立がんセンターがん登録室
〒373-8550 太田市高林西町 617-1
